# 一心太助の天秤棒

## ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を肩に担で売り歩く～

越谷市会議員　白川　ひでつぐ

*シリーズ/NO　１２１号*

Web サイト　Youtube　Twitter　Spotify

### 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期２０年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内６駅での朝の駅立ちは、通算４０００日を超えました。私の日々のツィッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は２２９名を超えました。これでスマートフォンでのライブ配信をすることが出来ます。登録のご協力に感謝し、更にご登録を引き続きお願いします。

チャンネル登録

越谷市会議員選挙特集　シリーズ NO２

### 市議６期目を始める事が出来た日

今朝の駅立ちは、せんげん台駅東口で通常通り午前 5 時 20 分からスタートした。前日は越谷市議選挙の開票日であり、この日は早朝の地元のラジオ体操に参加していた市民の皆さんに 1 週間に渡る選挙期間中のご協力に一人一人ご挨拶をした。

そして午後 9 時から午前 12 時まで私の事務所で「白川ひでつぐの市議選特番、開票速報」を YouTube でライブ配信をした。開票場となった越谷市総合体育館には選挙スタッフを二人派遣して、刻々と作業が進む開票状況を事務所と繋ぎながら配信した。

私と市民が二人で市議選を振り返りながら開票状況を交え、約 3 時間放映した。

スタッフは体育館の 2 階フロア―で双眼鏡を覗きながら、公式の開票発表を織り交ぜながら現場の 1 階フロア―で市職員約２００名の開票作業をスマホで実況をした。

最終の結果は午前 12 時を過ぎるのが予想されたが、私は 3510 票で当選を確実にしたため配信は午前 12 時までとした。

その後、事務所で配信を続けた市民と簡単な総括をして自宅で就寝したのは午前 2 時を過ぎで、午前 4 時に起床した。

更に、市民の一人は事務所に残り選挙報告のための「一心太助 120 号」の作成と印刷、おり込みのため作業を続け、せんげん台駅東口での朝の駅立ちにもチラシを持参し参加して頂いた。

選挙期間中、また直前では幾つもの陣営が駅立ちを実行していたが、私はここ 20 年間毎日、毎朝の駅立ちはルーチン化しているので、この朝も通常通りではあった

ただ流石に激しい市議選挙の翌日であり睡眠時間は 2 時間程度だったので午前 8 時 30 分過ぎに終了した時はホットして緊張感がほぐれた。

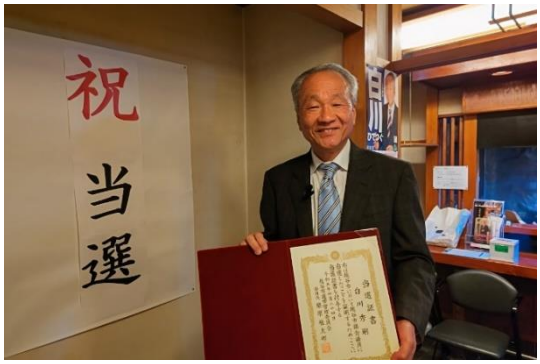
午前 7 時前に、新人で立憲民主党公認で当選された市民が駅立ちを、また共産党公認で 4 期目の当選となった議員も駅立ちを開始された。

それぞれ旧知の中でありお祝いの言葉と共に今後の活動へのエールを送った。

「一心太助」の受け取りは通常の 2 割増しとなり、次々と「おめでとうございます」「ご苦労様でした」と市民から声が掛かる。

しかし中には「トップ当選かと思ったけど」「6 位当選と前回より順位が落ちたね」と声もあり「力不足のためご期待に応える事が出来ませんでした、すみません」と応答した。

さあーこれから任期 4 年間を新たな気持ちでスタートするぞ、と迎えに来た妻が運転する自宅への帰りの車の座席で自分自身に言い聞かせた。　（4 月 24 日・月曜日）



## 当選証書授与式参加と選挙報告会を開催

4 月 24 日午前 2 時過ぎに、私の事務所の電話に越谷市選挙管理委員会から「当選証書授与式」の案内があった、とこの日の朝の駅立ちで「一心太助」を一緒に配布して頂いた市民から知らされた。私が事務所から帰宅した後も深夜に作業を続けていたこの市民の方が電話を受けて、驚いてしまったとも付言されて。

32 名の定数に 47 名もの過去最多立候補者となり、しかも３５，０６％という史上最低の低投票率を勝ち抜いてきた当選者への最初の舞台。この日、午後 1 時 30 分から越谷市中央市民会館の会議室には 32 名の当選者が集まり、越谷市選挙管理委員長から一人一人に当選証書が手交された。

会場には 7 名の新人の当選者を始め 7 期目のベテラン議員（私も 6 期目なので世間的にはベテラン議員なのかもしれないが、なんだかしっくり来ない）もいる中、それぞれ激しい選挙を勝ち抜いてきた喜びと安堵感に包まれていた。会場のあちこちでは、新人当選者が名刺を手に挨拶をする姿もみられた。

会場中央にあるスタンドマイクの前で、全員が自己紹介をする場面にはそれなりに個性が感じられたのだが、私の 1 期目のこの場面はすでに 20 年も以前の出来事になってしまった。

だからこそ「初心忘れべからず」とマイクの前ではなく、自分自身につぶやいた。

更にこの日、午後 7 時から私の事務所で「白川ひでつぐ選挙報告会」を開催した。多くの市民の方に集って頂いた。その中には都内から車で参加した市民もおられ、激励の言葉も頂いた。

私は「時代や歴史の転換点に私達は立っている。常に激動期には時代の先行きが見える者は辻立ちで大衆に向い、その方向性を示して来たことは古今東西の歴史的事実だ。しかしそれ故に権力や支配層からだけでなく、大衆自身から批判され石つぶてによって顔面から血が流れだす。それでも一瞬もひるまず演説を続ける事が出来るかどうかが、また石を投げた大衆の気持ちをも推認して、自身の生き方や価値観を体現しているかどうかを日常的に問われるものだ。

どこまで、私が出来ているかどうかは他者が評価するものだが、問われていることに日々坦々と応えて行きたい」と話した。

（4 月 24 日・月曜日）

## 今回は選挙カーを市内全域に走らせた

選挙での定番は、街宣車の活用（午前 8 時から午後 8 時までの時間帯にスピーカーを使用する事が出来る）なのだが、通常ひたすら候補者名の連呼や時間帯や場所に関係なく大きな音量で終日走り回る活動に大きな違和感を持ち続けて来た。そのため、1 期目から連呼を一切止め、宜しくお願いします、とのフレーズもウグイス嬢（この呼び方にも違和感はるあるが）を含め禁止して来た。

前回は更にこれを徹底するため、走行中の街宣車のマイクを切って、辻々での街頭演説を中心として来た。（声が自宅付近で聞こえてこないと相当市民からは批判を受けていたが）

しかし、すでに 20 年間にも及ぶ駅立ち等で知り合えた市民の中には現役を引退され、また 3 年間に及ぶコロナ禍の中でリモートワークによる勤務形態のため駅を利用していない等、私のメッセージが届きづらい状況となった。

この事について選挙を担って頂いた市民の皆さんが徹底的に論議して（テーマによっては、3 週間も結論を出すのに時間を必要とする事もあったのだが）、今回は市内全域を対象として街宣車を使用するが、名前の連呼ではなく公約や白川の個性を運転手やウグイス嬢が自分の言葉に変換して市民に呼びかける事になった。

結論としてこの方針となったため、選挙期間中（1 週間）毎日呼びかけるフレーズが日替わりとなり、市内全域にどう効率的なコースを組むのか、実際の運行には街宣活動の責任者は睡眠時間を削り、チームワークを維持しながら対応するという全く新たな困難に挑戦して頂いた。しかし、これまでにない活動に他の選挙にも数多く参加していたウグイス嬢からは全員、自分で考え、チーム一体で動くことがこんなに楽しい選挙は初めてだ、との声に確信を得た。